

大項目	中項目	小項目
		d. 看護チームアプローチ
		e. チームカンファレンス
		f. 情報の開示と患者参加の促進
		g. 対象者への説明と同意の確認
		h. 看護の安全な実施と対象者の反応の確認

目標Ⅱ. 基本的看護技術についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 共通基本技術	A. コミュニケーションの技術	a. コミュニケーションの構造・種類
		b. グループワークの基礎知識
		c. 看護面接技術
		d. コミュニケーションに障害のある人々への対応
	B. 教育指導の技術	a. 教育指導のプロセス
		b. 対象者に合わせた指導方法と媒体の工夫
		c. 個別指導・集団指導の特性、適用、メリット・デメリット
		d. 入院・退院時の援助
	C. 看護過程展開の技術	a. 情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合
		b. 看護問題の明確化と優先順位決定
		c. 看護目標の設定と計画
		d. 評価
		e. 看護記録の意義、必要性和種類
		f. 報告の必要性和方法
		g. 医療計画とクリニカルパス
	D. 観察技術	a. ヘルスアセスメントの基礎知識
		b. インタビューの技術
		c. 一般状態のアセスメントと評価
	E. 感染予防の技術	a. スタンダードプリコーション
		b. 感染症予防
		c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作
		d. 感染性廃棄物の取り扱い
		e. 感染症発生時の対応
		f. 針刺し事故防止

大項目	中項目	小項目	
	F. 安全管理の技術	a. 安全管理対策	
		b. 誤与薬の起こりやすい状況と対策	
		c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	
		d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	
		e. インシデント、医療事故、医療過誤の概念と内容	
		f. インシデントレポート、医療事故報告の目的と活用	
	G. 安楽確保の技術	a. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	
		b. 体位の種類と身体への影響、安楽な姿勢・体位の特徴	
		c. 身体ケアを通じてもたらされる安楽	
		d. 安楽を保つための医療環境の調整	
	H. 死亡時のケア	a. 死の兆候	
		b. 死後の処置	
		c. 遺族へのかかわり	
	4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境を整える技術	a. 環境の調整
			b. 病床の整備
B. 食生活の援助技術		a. 食事栄養の意義	
		b. 食物選択に影響する要因	
		c. 健康な食生活と食事摂取基準	
		d. 栄養状態の評価	
		e. 食行動に影響する要因のアセスメント	
		f. 食事摂取の援助方法	
		g. 病人の食事	
		h. 経管栄養法	
		i. 経静脈栄養法	
C. 排泄の援助技術		a. 排泄行動に影響する要因のアセスメント	
		b. 排泄物とその観察	
		c. 自然な排便・排尿を促す援助方法	
		d. トイレ歩行・ポータブルトイレの援助方法	
		e. 床上での尿器・便器・おむつによる援助方法	
		f. 浣腸・摘便	
		g. 導尿・膀胱留置カテーテル	

大項目	中項目	小項目
	D. 活動・休息の援助技術	h. 尿失禁・便失禁の種類と援助方法
		a. 活動・運動に影響する要因のアセスメント
		b. 体位変換
		c. 床上移動
		d. 車椅子への移動・移送
		e. ストレッチャーへの移動・移送
		f. 療養生活におけるレクリエーション
		g. 休息・睡眠に影響する要因のアセスメント
	E. 清潔・衣生活の援助技術	h. 睡眠を促す援助方法
		a. 清潔行動に影響する要因のアセスメント
		b. 身体各部の清潔の援助方法
		c. 病衣の選択
		d. 寝衣交換
5. 診療に伴う技術	A. 呼吸・循環を整える技術	a. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法
		b. 酸素吸入の適応と方法
		c. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO2>の測定
		d. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引
		e. 胸腔ドレナージの管理
		f. 排痰法
		g. 温罨法・冷罨法
		h. 保温・体温管理
	B. 創傷管理技術	a. 創傷の種類・治癒過程と観察
		b. 褥瘡の予防、処置
		c. ドレッシング・包帯法
	C. 与薬の技術	a. 薬剤の作用・投与量・投与方法による生体への影響、 起こりやすい合併症、生活への影響
		b. 薬剤の種類と取扱方法
		c. 与薬法
		d. 副作用の徴候の観察
	D. 救急救命処置技術	a. バイタルサインのアセスメント
		b. 一次救命処置
		c. 止血法
	E. 生体機能管理技術	a. 診察・検査時の看護師の役割
		b. 検体検査と尿、便、喀痰、血液の採取方法

大項目	中項目	小項目
		c. 生体検査
		d. 胸腔穿刺、腹腔穿刺、骨髄穿刺
		e. 胃洗浄、膀胱洗浄
		f. ME 機器の取り扱いとモニタリング

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 看護の役割と機能を支える 仕組み	A. 看護活動の場と専門分化	a. 地域・在宅における看護活動
		b. 医療施設における看護活動
		c. 保健福祉施設における看護活動
		d. チーム医療における看護職の役割・活動
		e. 看護職の各種資格と活動（認定看護師、専門看護師の活動を含む）
	B. 継続看護	a. 施設内における継続
		b. 施設間継続
		c. 施設と在宅間での継続（退院計画、指導を含む）
		d. 経時的変化に対する継続看護
	C. 保健医療福祉の連携	a. 他職種の役割
		b. 他職種との連携
		c. チームアプローチの概念
	D. 看護管理	a. 看護管理の概念
		b. 看護組織と職務
		c. 看護業務管理と看護基準
		d. 安全管理（リスクマネジメント、ヒューマンエラー）
		e. 看護提供システム
		f. リーダーシップとフォロワーシップ
		g. 現任教育、継続教育、キャリア開発
		h. 看護の質の保証と評価
i. 看護職員の労働安全衛生		
E. 看護制度、看護行政	a. 看護制度の変遷	
	b. 看護教育制度の変遷	
	c. 看護行政の組織	

大項目	中項目	小項目
		d. 看護にかかわる診療報酬
		e. 看護職員の確保
		f. 看護職員の労働環境
	F. 災害看護	a. 災害の定義、災害の種類と災害サイクル
		b. 災害時の制度と支援システムの構築
		c. 被災者救援
		d. 災害各期の看護支援
		e. 災害時要援護者への支援
	G. 看護の展望と国際化	a. 異文化と看護
		b. 看護の国際化

【在宅看護論】

目標 I. 在宅看護の特徴と在宅療養者および家族についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 在宅看護の対象者とその生活	A. 在宅看護の対象者	a. 疾病をもつ人と家族
		b. 障害をもつ人と家族
	B. 対象者の生活	a. 生活の場の種類
		b. 生活様式と価値観
	C. 在宅看護の提供方法	a. 外来看護
		b. 訪問看護（自宅、施設）
c. 通所施設での看護		
2. 在宅看護の特徴	A. 自立支援と看護	a. 役割の確立
		b. セルフケア
		c. 国際生活機能分類<ICF>の理解
	B. 病状・病態の予測と予防	a. ヘルスアセスメントの重要性
		b. 病状経過の予測の重要性
		c. 在宅での感染対策
	C. 生活の中で必要となる安全管理	a. 転倒の防止
		b. 窒息の防止
		c. 熱傷の防止
		d. 閉じこもりの防止
		e. 独居高齢者等と火災予防

大項目	中項目	小項目
		f. 虐待の防止
		g. 災害対策
	D. 家族介護者の理解と健康支援	a. 家族介護者のアセスメント
		b. 家族関係の調整
		c. 介護方法の指導
		d. 家族介護者の健康
		e. レスパイトケア
	E. 療養の場の移行に伴う看護	a. 退院に関する患者・家族の意向
		b. 退院支援・退院調整のプロセス、仕組み
		c. 退院調整にかかわる職種とその役割
		d. 医療機関・施設・地域の連携システム
	F. チームケアの理解	a. 在宅チームケアの意義
		b. 看護職同士の連携・協働
		c. 他職種との連携・協働
		d. 在宅ケアチームの実際の理解
		e. 在宅ケアチームにおける看護の役割の理解
	G. ケアマネジメントと看護の役割	a. ケアマネジメントの概念
		b. ケアマネジメントの過程
		c. 社会資源の理解と活用
		d. サービスの調整の実際
		e. 介護保険との関係
	H. 在宅看護における倫理的課題	a. 自己決定支援
		b. 権利擁護
		c. 成年後見制度
		d. 虐待防止
		e. 情報管理

目標Ⅱ. 在宅における看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 訪問看護ステーションの理解	A. 訪問看護ステーションの成り立ち	a. 訪問看護ステーションの歴史
		b. 訪問看護ステーションの機能
		c. 訪問看護ステーションの課題

大項目	中項目	小項目	
	B. 訪問看護ステーションの法的枠組み	a. 高齢者の医療の関係法規	
		b. 健康保険法	
		c. 介護保険法	
		d. その他関係法規	
	C. 訪問看護ステーションの仕組みと利用	a. 訪問看護ステーションの職員	
		b. サービス開始までの流れ	
c. 看護サービス提供方法			
4. 在宅における生活支援の方法と技術	A. 食	a. 食事摂取能力のアセスメント	
		b. 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント	
		c. 嚥下障害時の援助	
		d. 栄養補助食品の種類と選択方法	
		e. 口腔ケア	
	B. 排泄	a. 排泄障害のアセスメント	
		b. 排泄補助用具の種類と選択方法	
		c. 尿失禁の予防と援助	
		d. 便失禁への援助	
		e. 便秘の予防と援助	
	C. 清潔	a. 清潔のアセスメント	
		b. 在宅で実施する清潔方法の種類と方法	
		c. 清潔ケアと社会資源の活用	
	D. 移動	a. 日常生活動作〈ADL〉・手段的日常生活動作〈IADL〉のアセスメント	
		b. 移動時の安全確保	
		c. 居住環境のアセスメント	
		d. 移動補助用具の種類と選択方法	
		e. 自立歩行に必要な筋力評価と強化方法	
	5. 在宅療養者の状態別看護	A. 長期臥床状態にある（寝たきり）療養者	a. 長期臥床状態のアセスメント
			b. 残存機能の維持向上
c. 合併症の予防と対応			
d. 社会資源の活用			
B. 認知症療養者		a. 認知症のアセスメント	
		b. コミュニケーション技術	
		c. 症状への援助	
		d. 社会資源の活用	

大項目	中項目	小項目
	C. 難病の療養者	a. 特定疾患
		b. 難病対策要綱
		c. 急性増悪の早期発見と対応
		d. 社会資源の活用
	D. ターミナル期の療養者	a. 症状コントロール
		b. 地域緩和ケアの実際
		c. 看取りの看護
		d. 遺族ケア
	E. 精神障害者	a. 症状アセスメント
		b. コミュニケーション技術
		c. 症状への対応
		d. 社会資源の活用
	F. 子どもの療養者	a. 療養者と家族の発達のアセスメント
		b. 発達に応じた対応
		c. 合併症の予防
		d. 社会資源の活用
6. 在宅における医療管理を必要とする人と看護	A. 在宅医療と社会制度	a. 在宅医療と診療報酬
		b. 居宅等における医行為の実施に関する課題
		c. 訪問看護師が行う診療の補助
		d. 医師との連携
		e. 在宅医療に必要な薬剤、医療材料、衛生材料の調達方法
	B. 薬物療法	a. 服薬状況の把握
		b. 医師および薬剤師との連携
		c. 居宅等における麻薬の取り扱い
	C. 酸素療法	a. 対象者
		b. 機器の種類
		c. 合併症の予防
		d. 指導と安全管理
	D. 人工呼吸療法（非侵襲的換気療法を含む）	a. 対象者
		b. 人工呼吸器の原理・構造
		c. 気道浄化のケア
		d. 合併症の予防
e. 指導と安全管理		

大項目	中項目	小項目
	E. 膀胱留置カテーテル法	a. 対象者
		b. 合併症の予防
		c. 指導と安全管理
	F. 胃瘻・経管栄養法	a. 対象者
		b. 栄養剤の種類と特徴
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 指導と安全管理
	G. 中心静脈栄養法	a. 対象者
		b. 栄養剤の注入方法
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 指導と安全管理
	H. 褥瘡管理	a. 褥瘡発生のリスクアセスメント
		b. 褥瘡発生予防
		c. 寝具の種類と選択
d. 指導と安全管理		

【成人看護学】

目標Ⅰ. 成人の生活と健康についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 成人の特徴	A. 生涯発達の特徴	a. 身体の発達
		b. 心理社会的発達
		c. ライフサイクルにおける発達課題
	B. 成人と生活	a. 生活状況の変遷
		b. 家族形態と機能
		c. 日常生活を取り巻く環境
2. 成人に特有な健康問題の特徴	A. 生活習慣に関連する健康問題	a. 生活習慣病の形成と予後
		b. 生活習慣病の発生状況
	B. 職業に関連する健康問題	a. 就労条件・環境と病気
		b. 職業病の発生状況

大項目	中項目	小項目
	C. 生活ストレスに関連する健康問題	a. 生活ストレスと健康問題
		b. ストレス関連疾患の発生状況

目標Ⅱ. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 成人の特性や能力に応じたアプローチ	A. 成人としての自立を支える援助	a. 健康行動の促進・阻害要因
		b. ストレス・コーピング
		c. 成人教育の原理
	B. 家庭・職場で責任ある役割を担う人への援助	a. 社会的存在としての役割遂行
4. 健康の保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ	A. 生活習慣病の予防	a. 日常生活習慣の指標
		b. 定期健康診断システム
	B. 職業性疾患の予防	a. 適切な作業環境と労働条件
		b. 職業性疾患のアセスメントと対処
	C. ストレスの予防と緩和	a. ストレス状況と要因のアセスメント
		b. ストレスの緩和、解決方法

目標Ⅲ. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護	A. 救急救命時の看護	a. 緊急性と原因のアセスメント
		b. 心肺停止状態への対応
		c. 気管挿管時の援助
		d. 人工呼吸器装着時の援助
		e. 急性中毒への対処
		f. 外傷・熱傷・骨折の応急処置
		g. 危機的状態への精神的支援
	B. 周手術期の看護	a. 術後合併症のリスクアセスメント
		b. 術後合併症の予防と指導
		c. 術前の不安のアセスメントと援助
		d. 術前のボディイメージの変容への援助
		e. 手術体位とその影響
		f. 手術・麻酔による影響と援助

大項目	中項目	小項目
		g. 術中の安全管理
		h. 術後の疼痛管理
		i. 術後合併症の予防
		j. 早期回復促進への援助
		k. 術後の機能障害と生活制限への援助
	C. 化学療法時の看護	a. 全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処
		b. 抗がん薬投与時の管理とケア
		c. 心身・日常生活への援助
	D. 放射線療法時の看護	a. 全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処
		b. 照射法と被曝防御
		c. 放射線治療時の管理とケア
		d. 心身・日常生活への援助
	6. 障害への適応と社会復帰への看護	A. 障害受容への援助
b. 障害受容プロセスに応じた援助		
B. 障害の改善と克服への援助		a. 機能障害と日常生活動作のアセスメント
		b. 代償機能の獲得
		c. 役割交代、職場調整
		d. 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用
C. 社会参加への援助		a. 国際生活機能分類<ICF>の概念
		b. 社会参加・生活満足の要素と影響因子
7. 慢性的な経過をたどる健康障害への看護		A. セルフケア行動形成・維持への援助
	b. 生活習慣・ライフスタイルの調整	
	c. セルフケア行動継続への援助	
	d. 自己概念・自己効力感の把握と支援	
	B. 社会的支援の獲得への援助	a. 家族・患者会への支援
		b. 特定疾患治療研究事業の適用
8. 終末期の看護	A. 終末期にある患者への援助	a. 全人的苦痛のアセスメント
		b. 疼痛コントロール
		c. 死の受容過程と援助
		d. QOLの保証

目標Ⅳ. 機能障害のある成人への看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
9. 呼吸機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 呼吸機能の検査と観察
		b. 呼吸器症状の観察
		c. 換気障害、ガス交換障害の程度と原因
		d. 心身・日常生活への影響
	B. 呼吸機能障害のある患者の看護	a. 気管支鏡・造影検査時の援助
		b. 胸腔穿刺検査時の援助
		c. 胸腔鏡下手術時の援助
		d. 抗アレルギー薬、気管支拡張薬、副腎皮質ステロイドの服薬指導
		e. 吸入療法、胸腔ドレナージの管理
		f. 呼吸困難・喀痰困難時の呼吸理学療法
		g. 喘息発作時の援助
		h. 貧血によるガス交換機能、酸素運搬能の障害への援助
		i. 肺切除術での看護
		j. 慢性呼吸不全患者の看護
10. 循環機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 循環機能の検査と観察
		b. 循環機能障害の程度と原因
		c. 心身・日常生活への影響
	B. 循環機能障害のある患者の看護	a. 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助
		b. ペースメーカー装着時の援助
		c. 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導
		d. 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導
		e. 虚血性心疾患時の生活指導
		f. 経皮的冠動脈形成術での看護
		g. 開心術での看護
h. 慢性心不全患者の看護		
11. 栄養摂取・代謝障害のある患者の看護	A. 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント	a. 咀嚼・嚥下障害の検査と観察
		b. 咀嚼・嚥下障害の程度と原因
		c. 心身・日常生活への影響

大項目	中項目	小項目
	B. 咀嚼・嚥下障害のある患者の看護	a. 経管・経腸栄養法の管理と指導
		b. 咀嚼・嚥下訓練
		c. 嚥下障害部位に応じた食事摂取の援助
		d. 喉頭・咽頭切除術での看護
		e. 食道再建術での看護
	C. 消化・吸収障害の観察とアセスメント	a. 消化・吸収機能の検査と観察
		b. 消化・吸収機能障害に伴う症状の観察
		c. 栄養状態の把握
		d. 消化・吸収障害の程度と原因
		e. 心身・日常生活への影響
	D. 消化・吸収障害のある患者の看護	a. 中心静脈栄養の適用と管理
		b. 消化管内視鏡・造影検査時の援助
		c. 胆汁瘻の管理と指導
		d. 腹痛・嘔吐・吐血・下血・下痢の看護
		e. 胃・十二指腸潰瘍の生活指導
		f. 膵炎の生活指導
		g. 腹腔鏡下手術での看護
		h. 胆嚢摘出術での看護
		i. 胃切除術での看護
		j. 膵臓切除術での看護
		k. 腸切除術での看護
	E. 肝機能障害の観察とアセスメント	a. 肝機能の検査と観察
		b. 肝機能低下・肝不全に伴う症状の観察
		c. 肝機能障害の程度と原因
		d. 心身・日常生活への影響
	F. 肝機能障害のある患者の看護	a. 肝生検時の援助
		b. インターフェロン療法時の援助
		c. 食道静脈瘤硬化療法の合併症予防
		d. 食道静脈瘤の破裂予防と破裂時の対応
		e. 肝底護の生活指導
		f. 肝性脳症の予防と生活指導
		g. 胆管ドレナージの管理と援助
		h. 肝動脈塞栓術での看護
i. 肝切除術での看護		

大項目	中項目	小項目
	G. 糖代謝障害の観察とアセスメント	a. 糖代謝の検査
		b. 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出
		c. 高血糖症状、低血糖症状の観察
		d. 糖代謝障害の程度と原因
		e. 心身・日常生活への影響
	H. 糖代謝障害のある患者の看護	a. インスリン療法、経口糖尿病薬の服薬指導
		b. 血糖自己測定の指導
		c. インスリン自己注射の指導
		d. 糖尿病の食事・運動療法の指導
		e. 糖尿病の合併症予防と生活指導
	I. 脂質・尿酸代謝障害の観察とアセスメント	a. 脂質・尿酸代謝の検査
		b. 脂質・尿酸代謝機能障害に伴う症状の観察
		c. 脂質・尿酸代謝障害の程度と原因
		d. 心身・日常生活への影響
	J. 脂質・尿酸代謝障害のある患者の看護	a. 脂質異常症（高脂血症）の生活指導
		b. 高尿酸血症の生活指導
12. 内部環境調節障害のある患者の看護	A. 内分泌機能の観察とアセスメント	a. 甲状腺機能の検査と観察
		b. 甲状腺機能障害に伴う症状の観察
		c. 甲状腺機能障害の程度と原因
		d. 心身・日常生活への影響
	B. 内分泌機能障害のある患者の看護	a. 甲状腺切除術での看護
		b. ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導
		c. ホルモンバランス失調状態の生活指導
	C. 体液調節機能の観察とアセスメント	a. 腎機能の検査と観察
		b. 腎機能低下に伴う症状の観察
		c. 体液不均衡の程度と原因
		d. 心身・日常生活への影響
	D. 体液不均衡のある患者の看護	a. 腎生検時の援助
		b. 急性腎不全の病期に応じた生活指導
		c. 慢性腎不全の病期に応じた生活指導
		d. 透析療法の適用基準と選択
		e. 血液透析・腹膜透析の管理
		f. 維持透析の生活指導
		g. 腎移植術での看護

大項目	中項目	小項目	
	E. 体温調節機能の観察とアセスメント	a. 発熱・熱型と随伴症状の観察	
		b. 体温異常の程度と原因	
		c. 心身・日常生活への影響	
	F. 体温調節機能障害のある患者の看護	a. 熱中症・高体温への援助	
		b. 低体温への援助	
	13. 生体防御機能の障害のある患者の看護	A. 免疫機能の観察とアセスメント	a. 炎症反応の観察
b. 免疫機能低下の程度と原因			
c. 心身・日常生活への影響			
B. 感染症の観察とアセスメント		a. 熱型の観察	
		b. 感染症に伴う症状の観察	
		c. 感染症の程度と原因	
		d. 心身・日常生活への影響	
C. 免疫不全のある患者の看護		a. 膠原病患者の看護	
		b. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS>での生活指導	
D. 免疫機能低下のある患者の看護		a. 骨髄穿刺時の援助	
		b. 感染の予防と生活指導	
		c. 臓器移植での看護	
		d. 骨髄移植・幹細胞移植での看護	
		e. 白血病患者の看護	
		f. アレルギー疾患患者の看護	
		g. 臓器移植時の倫理的配慮	
14. 感覚機能障害のある患者の看護		A. 観察とアセスメント	a. 感覚機能の検査と観察
			b. 感覚機能障害に伴う症状の観察
			c. 感覚機能障害の程度と原因
	d. 心身・日常生活への影響		
	B. 感覚機能障害のある患者の看護	a. 点眼薬投与時の援助	
		b. 感覚障害への生活指導	
		c. 鼓室形成術での看護	
15. 脳・神経機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 脳・神経機能の検査と観察	
		b. 言語の表出と理解の観察	
		c. 頭蓋内圧亢進症状の程度と原因	
		d. 心身・日常生活への影響	

大項目	中項目	小項目	
	B. 脳・神経機能障害のある患者の看護	a. 髄液検査時の援助 b. 意識障害への援助 c. 注意・記憶障害への援助 d. 失語・構音障害への援助 e. 脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術での看護 f. 若年性認知症患者の看護 g. 脊髄損傷患者の看護	
16. 運動機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 運動機能の検査と観察	
		b. 日常生活動作の観察	
		c. 運動機能障害の程度と原因	
		d. 心身・日常生活への影響	
	B. 運動機能障害のある患者の看護	a. 脊髄造影検査<ミエログラフィ>時の援助	
		b. 効果的な固定法・牽引法への援助	
		c. ギプス固定・各種牽引療法時の援助	
		d. 関節可動域訓練時の援助	
		e. 筋力増強訓練時の援助	
		f. 骨折の観血的整復術時の援助	
		g. 人工関節置換術での看護	
		h. 関節リウマチ患者の看護	
	17. 排泄機能障害のある患者の看護	A. 排尿機能障害の観察とアセスメント	a. 排尿機能の検査と観察
			b. 尿排泄障害の程度と原因
c. 心身・日常生活への影響			
B. 排尿機能障害のある患者の看護		a. 尿流動態検査、膀胱鏡検査時の援助	
		b. 膀胱留置カテーテルの管理	
		c. 間欠的自己導尿法の指導	
		d. 腹圧性尿失禁の運動訓練と生活指導	
		e. 脊髄損傷による排尿障害への援助	
		f. 脳卒中による排尿障害への援助	
		g. 尿路変更術での看護	
C. 排便機能障害の観察とアセスメント		a. 排便機能の検査と観察	
		b. 排便機能障害の程度と原因	
		c. 心身・日常生活への影響	
D. 排便機能障害のある患者の看護		a. 大腸内視鏡検査、直腸診時の援助	
		b. イレウスの予防と生活指導	

大項目	中項目	小項目
		c. 脊髄損傷による排便障害への援助
		d. 脳卒中による排便障害への援助
		e. 直腸切除術・人工肛門造設術での看護
18. 性・生殖機能障害のある患者の看護	A. 観察とアセスメント	a. 生殖・性機能の検査
		b. 生殖器・性機能障害に伴う症状の観察
		c. 性行動・性生活の把握
		d. 生殖・性機能障害の程度と原因
		e. 心身・性生活・日常生活への影響
	B. 性・生殖機能障害のある患者の看護	a. 内診、性機能検査時の援助
		b. 勃起障害に対する薬物療法時の援助
		c. 脳卒中および脊髄損傷による性機能障害への援助
		d. 前立腺摘出術での看護
		e. 子宮・卵巣摘出術での看護
		f. 乳房切除術での看護

【老年看護学】

目標Ⅰ. 老年期を生きる人々の生活と健康についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 老年期の理解	A. ライフサイクルからの老年期の理解	a. 老年期の定義
		b. 加齢と老化
	B. 人口学的指標からの老年期の理解	a. 高齢者人口の推移
		b. 前期・後期高齢者人口の年代別構成
		c. 性差
		d. 地域格差
	C. 健康指標からの老年期の理解	a. 平均寿命・健康寿命
		b. 疾病構造と有病率・有訴率
		c. 受療行動・受療の動向
		d. 要介護高齢者の出現率と動向
		e. 死亡率、死因、死亡場所
	D. 生活の視点からの老年期の理解	a. 生活の構造
		b. 生活のリズムと生活習慣
c. 役割と社会活動・余暇活動		

大項目	中項目	小項目
		d. 家族・世帯構成
		e. 住宅と環境
		f. 就労・雇用
		g. 収入・生計
2. 老年期を生きる人々の特徴	A. 老年期の発達と成熟	a. 老年期における発達と成熟の意味
		b. 老年期の発達課題
		c. 人格と尊厳
		d. 喪失体験
		e. 高齢者のスピリチュアリティ
	B. 高齢者の多様性	a. 高齢者の人生と経験の意味
		b. 高齢者の生活史
		c. 価値観の多様性
		d. 健康状態の多様性
		e. 生活習慣・生活様式の多様性
3. 老年期を生きる人々の健康	A. 加齢に伴う変化	a. 加齢に伴う変化の特徴
		b. 身体的機能の加齢変化
		c. 精神的機能の加齢変化
		d. 社会的機能の加齢変化
	B. 高齢者にとっての健康	a. 老年期の健康のとらえ方
		b. 高齢者の健康の特徴
		c. 生きがいと生活の満足感
4. 高齢者をとりまく社会	A. 高齢者と家族	a. 高齢者と家族のライフサイクル
		b. 家族構成の変化
		c. 家族形態の変遷
		d. 高齢者と家族の人間関係
	B. 高齢者と社会システム	a. 高齢者の社会参加
		b. 高齢者ソーシャルサポート
		c. 高齢者サービスシステム

目標Ⅱ. 健康レベルや療養形態に応じた高齢者と、その家族に対する看護実践についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 老年看護の基本的考え方と課題	A. 高齢者とQOL	a. 高齢者の尊厳と権利擁護〈アドボカシー〉
		b. ノーマライゼーション

大項目	中項目	小項目	
	B. 老年看護活動の特性	c. 自立支援とエンパワメント	
		a. 安全な生活への看護	
		b. 健康の保持増進と予防活動の重視	
		c. 疾病の回復への看護	
		d. 日常生活能力の維持・改善	
		e. 人生の終焉への看護	
		f. 家族との協働と家族看護	
		g. ケアの調整とリスクマネジメント	
		h. チームアプローチ	
		i. 老年看護活動の場の特質と看護	
	C. 老年看護における倫理的課題	a. 自己決定	
		b. 資源の公平な分配	
		c. 高齢者差別<エイジズム>	
		d. 高齢者虐待と関連法規	
		e. 成年後見制度	
		f. 社会福祉法における福祉サービス利用援助事業	
	6. 高齢者の生活を支える看護	A. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント	a. 基本的日常生活動作<BADL>と手段的日常生活動作<IADL>
			b. 認知機能
			c. 心理・情緒機能
d. 活動と社会参加			
e. 生活環境			
B. コミュニケーション		a. コミュニケーション能力や高齢者とのコミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント	
		b. 高齢者とのコミュニケーションの方法	
C. 歩行・移動		a. 歩行・移動動作のアセスメント	
		b. 歩行・移動動作の援助	
D. 転倒		a. 高齢者の転倒予防の意義	
		b. 転倒発生の要因	
		c. 転倒予防のためのアセスメント	
		d. 転倒予防のための援助	
E. 食生活		a. 食生活のアセスメント	
		b. 食生活の援助	
F. 排泄		a. 排泄のアセスメント	

大項目	中項目	小項目
	G. 清潔・衣生活	b. 排泄の援助
		a. 清潔行為のアセスメント
		b. 更衣動作のアセスメント
	H. 活動と休息	c. 清潔・衣生活の援助
		a. 活動と休息のアセスメント
	I. 性<セクシュアリティ>	b. 活動と休息の援助
		a. セクシュアリティのアセスメント
	J. 社会参加	b. 健康なセクシュアリティへの援助
		a. 社会参加のアセスメント
	7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	A. 脱水症
a. 高齢者の脱水症の病態と要因		
b. 脱水症のアセスメント		
B. 摂食・嚥下障害		c. 脱水症の予防と援助
		a. 高齢者の摂食・嚥下障害の病態と要因
		b. 摂食・嚥下障害のアセスメント
		c. 摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護
C. 低栄養状態		d. 誤嚥性肺炎の予防と援助
		a. 高齢者の低栄養状態の病態と要因
		b. 低栄養状態のアセスメント
D. 癢痒症		c. 他職種との協働による栄養管理
		a. 高齢者の癢痒症の病態と要因
		b. 癢痒症の症状と生活への影響のアセスメント
E. 尿失禁		c. 癢痒症の予防と援助
		a. 高齢者の尿失禁の病態と要因
		b. 尿失禁のアセスメント
F. 便秘・下痢		c. 尿失禁を有する高齢者への援助
		a. 高齢者の便秘・下痢の病態と要因
		b. 便秘・下痢のアセスメント
G. 睡眠障害		c. 便秘・下痢の予防と援助
		a. 高齢者の睡眠の特徴と睡眠障害の病態と要因
		b. 睡眠障害のアセスメント
H. 視覚障害		c. 睡眠障害を有する高齢者への援助
		a. 高齢者の視覚障害の病態と要因
		b. 視覚障害の程度と生活への影響のアセスメント

大項目	中項目	小項目
		c. 白内障治療時の援助
	I. 聴覚障害	a. 高齢者の聴覚障害の病態と要因
		b. 聴覚障害の程度と生活への影響のアセスメント
		c. 補聴器を使用する高齢者とその家族への援助
	J. 廃用症候群	a. 高齢者の廃用症候群の病態と要因
		b. 廃用症候群予防のためのアセスメント
		c. 廃用症候群予防のための援助
	K. 骨粗鬆症	a. 高齢者の骨粗鬆症の病態と要因
		b. 骨粗鬆症の症状と生活への影響のアセスメント
		c. 骨粗鬆症予防のための援助
		d. 骨粗鬆症の治療と援助
	L. うつ病	a. 高齢者のうつ病の特徴と要因
		b. うつ病の症状と生活への影響のアセスメント
		c. うつ病の治療と援助
	M. せん妄	a. 高齢者のせん妄の病態と要因
		b. せん妄のアセスメント
		c. せん妄予防のための援助
		d. せん妄発生時の治療と援助
	N. 認知症	a. 高齢者の認知症の病態と要因
		b. 認知機能の評価方法
		c. 認知症高齢者に対する基本的姿勢とコミュニケーション方法
		d. 周辺症状と生活への影響のアセスメント
		e. 認知症の治療と援助
		f. 認知症の療法的アプローチ
		g. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム
		h. 認知症高齢者の権利擁護のための社会的支援・制度
	O. パーキンソン症候群（パーキンソニズム）	a. 高齢者のパーキンソン症候群の病態と要因
		b. パーキンソン症候群の症状と生活への影響のアセスメント
		c. パーキンソン症候群の治療と援助
	P. 感染症	a. 高齢者の感染症の病態と要因